

(5) 小学校 授業改善の特記ポイント

国 語

<国語への関心・意欲・態度>

☆学習したことを活用する学習場面の設定をしましょう。

目的に応じて、「話し合ったことを発表する。」「読んだ感想を交流する。」といった単元を貫く課題解決的な活動を位置付け、学習したことを活用して主体的に取り組む活動を設定します。単元の課題を明確にして、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする必然性をもたせ、児童の学習意欲を向上させることが大切です。

<話す・聞く能力>

☆他教科等と関連付け、集団の意見をまとめる話し合い活動の充実を図りましょう。

話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりする力や、互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う力を高めていくことが大切です。身に付けた力を他教科等の話し合い活動に活用できるように、多くの話し合いの場を設定することが大切です。

(例) ①(3)グループで話し合ったことをまとめ、自分の考えを再構成させる。

<書く能力>

☆相手や目的に応じて書きたいことが伝わるように書く指導を充実させましょう。

よりよい文章にするために、児童が自分の書いた文章を読み返し、推敲する学習活動や、下書きの文章と推敲後の文章を比べる学習活動などを取り入れましょう。また、文章を書く前の段階において、複数の事例を集め、比較・検討するように指導することや、教師がよい文章を意図的・計画的に提示し、よい文章とはどのようなものなのかを理解させることも大切です。

(例) ⑥(3)相手に分かりやすく伝えるために、推敲させる。

<読む能力>

☆地の文や行動、会話などから関連的に読み取る指導の充実を図りましょう。

登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連的に捉えさせることが必要です。また、行動や会話、情景などを通じた暗示的な表現についても捉えられるように指導していきましょう。

(例) ⑤(3)叙述を基に、登場人物の様子を読み取る。

<言語についての知識・理解・技能>

☆学年に応じて各領域での指導の充実を図りましょう。

主語と述語の指導及び修飾と被修飾の関係の指導は、特設的に指導することも大切ですが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の指導の中で、常に意識させながら繰り返し指導していくことが重要です。各領域を通して様々な文に触れることで、主語が省略されることや、複数の修飾語が一つの文節を修飾することなどの理解を定着させることができます。

社 会

<社会的事象への関心・意欲・態度>

☆課題把握において、児童が社会的事象から学習問題を見いだすことができるようにしましょう。

課題把握の場面においては、児童の学習対象に対する関心を高め、児童に問題意識をもたせるようにすることが大切です。

(例) ④(1) 販売についての学習問題を見いだす学習

買い物調べの結果から、スーパーマーケットが行っている工夫についての疑問を児童にもたせ、学習問題を見いだすことが考えられます。

<社会的な思考・判断・表現>

☆児童が見学などで調べてきたことを整理し、社会的事象の特色や相互の関連、社会的事象の意味について考えさせましょう。

(例) ②(2)(3) 消防署見学や地域の消防団員へのインタビューで調べてきた取組の目的を考える学習

消防署見学やインタビューの後、「調べて分かったこと」を児童に発言させます。その際、教師は原因や理由、目的を問う発問を意図的に行うことが重要です。その後、黒板で児童の発言を分類・整理し、原因や目的について考えさせることで、児童に「社会的事象の特色や相互の関連、社会的事象の意味」を捉えさせるようにすることが必要です。

<観察・資料活用の技能>

☆方位についての指導の充実を図りましょう。

まず、児童が方位について理解できるようにすることが重要です。例えば、方位記号の中央から見て、矢印が向いている方位が北であり、その反対が南、右が東、左が西であること東京ベーシック・ドリル等を用いて理解させます。その上で、習得したことを活用する場面を設定することが重要です。

(例) ①(1) 地図学習で習得した知識を活用する学習

地域の見学において、地図を使って方位を確認する活動を取り入れたり、地域の見学後にまとめた地図から地域の様子を読み取り、方位を用いて言い表したりする学習が考えられます。

<社会的事象についての知識・理解>

☆我が国の47都道府県の名称と位置について、児童が学習内容と関連付けながら、小学校卒業までに身に付け、活用できるようにしましょう。

以下のような学習を通して、小学校卒業までに我が国の47都道府県の名称と位置を確実に身に付け、活用できるようにすることが大切です。

第3学年 地域の人々の生産や販売についての学習

第4学年 自分たちの県の様子、飲料水、電気、ガスの供給や廃棄物の処理についての学習

第5学年 我が国の位置と領土の範囲、地形や気候の概要、農業や水産業、工業の盛んな地域、貿易や運輸などについての学習

第6学年 歴史学習

算 数

<算数への関心・意欲・態度>

☆学習した内容を活用する場面を設定し、よさを実感する活動を充実させましょう。

問題解決の中で考えたことや、学習したことを振り返り、実生活や次の問題解決に生かしていく態度を育てることが大切です。

(例) ⑦(3)学習内容を生活や次の問題解決に生かしていくために

- ・資料を整理するときには、落ちや重なりがないように、数えた資料に印を付けて数えさせる。
- ・効率的な資料の整理方法について学級内で検討を行う。
- ・他の教科においても整理した内容についてグラフや表などで分かりやすく示したり、様々な観点から特徴や傾向を調べたりする活動を取り入れていく。

<数学的な考え方>

☆図を用いて数量の関係を捉えさせる指導を充実させましょう。

問題文を図に表すことで、それぞれの数の関係を捉えやすくなり、何を求めるのかが明らかになります。また、視覚的に数量関係も捉えやすくなり、立式の支援にもなります。

(例) ④(1)基準量、割合、比較量を捉えやすくするために

- ・問題文と図、図と式、問題文と式のそれぞれの関係を理解させるために、割合、比較量、基準量をテープ図や数直線図に整理させる。
- ・演算決定した際の原因や考えた根拠について、図を用いて説明させる。

<数量や図形についての技能>

☆計算方法を説明させたり、意味を理解させたりする指導を充実させましょう。

計算の仕方の指導では、計算方法や筆算等の手順の指導をするだけでなく、計算方法の意味について指導したり、見当をつけて計算させたりすることが大切です。

(例) ①(4)「 0.3×0.4 」の計算や(5)「 $1.4 \div 4$ 」の計算で、位取りによる間違いを防ぐために

- ・計算の方法を考える際に、なぜ10倍したのかということやどのような計算のきまりを用いたのかということについて説明をさせる。
- ・見当を付けてから計算したり、求めた答えと見当をつけた答えを照らし合わせて確認させたりさせる。

<数量や図形についての知識・理解>

☆既習の知識を用い、理解を確かめる活動を取り入れましょう。

具体的な活動を通して身に付けた知識をその後の学習や生活の中で使えるようにしていくことが大切です。

(例) ⑤(2) $1 \text{ a} = 10 \text{ (m)} \times 10 \text{ (m)}$ についての知識の定着を図るために

- ・面積の学習を行う際に、実際の面積の大きさを示したり、作ったりするなど量感を豊かにする活動を取り入れる。
- ・ a や h a の単位が使われている場面や場所などを探す活動を取り入れる。

＜自然事象への関心・意欲・態度＞

☆学習を通して身に付けた知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考えさせる学習場面の設定をしましょう。

自然事象への関心・意欲・態度をより向上させるためには、観察・実験の結果から結論を導き出してまとめを行うだけでなく、身近な道具や科学技術等との関連を図り、理科を学ぶ意義や有用性を実感させることが大切です。

(例) ⑨(4)「電気の働き」の学習内容をより深く理解させるために

- ・電気の働きを利用している身近な道具について調べる活動
- ・電気以外に、物を動かす働きがあるものについて調べる活動 など

＜科学的な思考・表現＞

☆観察・実験の結果をグラフや表にまとめ、それらを基に考察して、根拠を示しながら自分の考えを説明する学習場面を設定しましょう。

科学的な思考力・表現力を養うためには、観察・実験の結果をまとめたグラフや表から、全体の傾向を捉えて考察するとともに、児童に考えを説明させる学習活動を充実させることが大切です。

(例) ③(2)「電気・磁石の性質」の学習内容をより深く理解させるために

- ・鉄・銅・アルミニウム等、磁石に付く物との混同が予想される材質を使って、電気を通す物について調べ、分かったこと等を説明する活動
- ・「電気の性質」と「磁石の性質」との学習を関連させたおもちゃづくり など

＜観察・実験の技能＞

☆繰り返し操作をする機会、立ち戻る学習場面を設定しましょう。

観察・実験を安全に行い、信頼性の高いデータを得るために必要な技能を確実に習得するためには、繰り返し操作をする機会を設けるとともに、児童につまずきが見られた時点で、既習事項にもう一度立ち戻り、全ての児童が「できる」、「分かる」ようにすることが大切です。

(例) ⑦(2)「季節と生物」の学習内容をより深く理解させるために

- ・温度計の数を可能な限り整備するとともに、小集団で操作方法や安全な観察の仕方について話し合う活動
- ・実際の観察器具を用いて具体的な操作方法を示すとともに、東京ベーシック・ドリルを活用して、適切な操作について考える活動 など

＜自然事象についての知識・理解＞

☆観察・実験等の具体的な体験を通して、実感を伴った理解を図ることができる学習場面の設定をしましょう。

自然事象についての知識・理解の定着には、児童が自ら自然の事物・現象に働きかけ、具体的に調べることにより、実感を伴った理解を図ることが大切です。

(例) ⑧「物と重さ」の学習内容をより深く理解させるために

- ・てんびんを用いたり、重さを数値化したりするなど、物の重さを比較しながら調べる活動
- ・ブロックを使い、ブロックの数は変えずに、いろいろな形の重さについて調べる活動 など